

# 「埼玉学園大学紀要(経営学部篇)」の創刊に寄せて

学長 峯 岸 進

ここに経営学部教員スタッフによる「埼玉学園大学紀要(経営学部篇)」の創刊号が発刊されました。まずもってお祝いを申し上げます。

経営学部教員スタッフは、縁あって埼玉学園大学の創立メンバーとして集い、21世紀のスタートと同時に開学した本学の大学としての使命を十全に発揮することを同意決意した研究者集団であります。

21世紀がスタートし、国内においては、バブル経済崩壊後の後遺症による経済の長期停滞と、その一層の不況の深化、デフレスパイラルに直面し、その打開策、方向性がなかなか見つからない危機的状況を有しています。国外においては、アメリカのマンハッタンビル等の同時テロ攻撃とそれへの報復戦争という、新たな戦争の世紀の幕開けとなりました。

こうした、新世紀スタート年が内外の困難な時代の幕開けとなり、大学が「学術、学問の教育・研究」を通じて、世界の人類が幸福になる方途を探求すべく、益々その大きな期待と使命を担なわされており、その歴史的使命感を新たに自覚させられるものがあります。

一方、時代はIT革命によるワールド・ワイドに情報・文化の交流が一層進み、リアル・タイムに世界の必要な情報を入手でき、世界は一層狭くなってきております。その他、高分子生物学の分野での遺伝子組み替え等生命科学の発展とその応用、地球環境保全問題等、世界的視野で人類の尊厳、生存を脅かすような根本問題を我々に突きつけている時代でもあります。

人類が、一人ひとりの幸福のために諸科学の発展を進めてきたのでありますが、その諸科学には表の面と裏の面との両面が常に存在しています。時として、人種、宗教、信条、貧富格差等の違いによる対立が、人類が蓄積してきた諸科学の裏の面の利用により、人類を不幸に陥れております。

大学は、諸科学の分野において時代と国を超えた普遍の原理を発見(構築)し、人類の幸福のために貢献すべき使命感を有しているものと考えています。

21世紀の幕開けとともに、世界的な広がりでの諸問題と人類の生き方を根本的に問う困難な時代を迎え、大学人が、研究と教育の成果を十全に発揮され、21世紀の諸問題に果敢に取り組む有為な人材を育成し、その職責を果たしてゆかなければならないと考えています。

ここに、「埼玉学園大学紀要（経営学部篇）」の創刊号が発刊され、先生方の研究成果の発表の場として、広く研究交流が促進され、大学の使命を果たす良い機会となるものと確信しております。先生方のたえまない一層の研鑽を切に願います。

平成13年12月